

1. 科目名 (単位数)	英語学演習Ⅱ (意味論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3305
2. 授業担当教員	阿部 裕子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野である意味論 (Semantics) に焦点を当てて学習する。まず、意味論は言語 (日常言語) の意味を研究対象とするが、本講座では、「意味の分析」「意味関係」「テキストと意味」「意味変化」などの分野を取り上げる。このような分野を通して、言葉の意味、日常語の曖昧性と類似性、いくつかの文からなる「テキスト」(「談話」ともいう) の構造、意味の変化の原因や分類などの考察を試みる。そして意味論の学習を通して、英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を知り、理解を深めていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解している。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解している。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できる。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	プレゼンテーションとレポート課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「意味関係」に関連するプレゼンテーション 2. 意味論の英語教育への応用に関するレポート 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池上嘉彦『テイクオフ英語学シリーズ3 英語の意味』大修館書店。 【参考書】 松本曜『認知意味論』大修館書店。 山内信幸・北林利治 共編著 『現代英語学へのアプローチ』英宝社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解しているか。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解しているか。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できるか。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができるか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の 30% 2 復習テスト・レポート 総合点の 30% 3 期末テスト 総合点の 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論は大変興味深い分野であり、語学教育への応用が可能です。授業研究や教材開発にも、意味論学んだことを積極的に活用してみてください。 2. 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められない。 3. 遅延の場合は、遅延証明書を授業の終わりまでに担当教員に提出すること。なお、遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため、注意すること。 		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction 講義概要・学習目標・学習方法 1. 日常の言語生活の中の「意味論」	事前学習	第 1 章 (pp. 3~) を読み、重要語句に印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、意味論の全体像を把握する。
第 2 回	2. 意味の本質 ①概念的意味 ②感情的意味 ③文法的意味 ④意味の分析としての成分分析	事前学習	意味の本質について、配付プリントに目を通す。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第 3 回	3. 意味関係 ①意味のあいまいさ：同音性と多義性	事前学習	教科書の pp. 4~5, p. 9 を読み、「同音性」と「多義性」について理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第 4 回	3. 意味関係 ②意味の類似性 (同義性) : ○意味のずれ (上下関係、非両立性) ○文体的価値のずれ	事前学習	教科書の第 4 章の「意味の類似性」を読み、配付プリントの説明に目を通す。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。

第5回	3. 意味関係 ③反意性 1. 相補的な関係に基づくもの 2. 連続した尺度に基づくもの 3. 反対関係に基づくもの	事前学習	教科書の第4章及び配付プリントの「反意性」に目を通し、以下の3つの枠組みに注意を払うこと。 1. 相補的な関係に基づくもの 2. 連続した尺度に基づくもの 3. 反対関係に基づくもの
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第6回	4. 意味とコンテキスト 話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するための4つの仕組みの理解。 ①指示機能 ②発話行為 ③背景となる知識 ④会話の原則	事前学習	第6章を読み、「意味とコンテキスト」について理解する。 話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するため、4つの仕組みについて事前に教科書の説明をよく読んでおくこと。 ①指示機能 ②発話行為 ③背景となる知識 ④会話の原則
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第7回	5. テキストと意味 ①テキストの定義 ②テキスト構造(ミクロ構造、マクロ構造)。 テキストとは、「いくつかの文からなるもの」の事を言い、文と文のつながりや段落間の関連性(cohesion & coherence)について学習する。	事前学習	「テキストと意味」に関する印刷教材を読み、提示された英文の内容を理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第8回	5. テキストと意味 ③印刷教材を使用し、実際に英文でテキスト構造を確認する。	事前学習	配付されたプリントの英文の内容を理解し、テキスト構造について考えてみる。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第9回	6. 意味変化(第7章) ①語の意味変化:意味は時と共に変化する。 Key Wordsは、意味の特殊化、意味の一般化、意味の向上、意味の下落。	事前学習	第7章を読み、語の意味変化として、以下の4点について理解する。 ①意味の特殊化 ②意味の一般化 ③意味の向上 ④意味の下落。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第10回	6. 意味変化(第7章) ②意味変化の原因:語の意味はなぜ変化するのかを考察する。例、社会における語の移動、語の意味と指示物とのずれ、語彙体系の変化など。	事前学習	第7章の意味変化の原因をよく読み、①社会における語の移動 ②語の意味と指示物とのずれ ③語彙体系の変化について理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第11回	6. 意味変化(第7章) ③意味変化の仕組み:元の意味と新しい意味との関係を考察する。Key Wordsは意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性など	事前学習	第7章の意味変化の仕組みをよく読み、意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性などについて理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第12回	7. 意味論の初等教育への応用:これまで学んできたことが小学校の英語教育にどのように活用できるか、考察する。	事前学習	意味論の分野で、小学校の英語教育への応用が可能な分野や内容を事前に選択し、英文は音読練習をしておくこと。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第13回	8. 意味論の中等教育への応用:これまで学んできたことが、中学校や高等学校の英語教育にどのように活用できるか、考察する。	事前学習	意味論の分野で、中学校や高校の英語教育への応用が可能な分野や内容を事前に選択し、英文は音読練習をしておくこと。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第14回	9. 意味論の英語教育への応用:これまで学んできたことが、小学校・中学校・高校学校での英語教育にどのように活用できるか、発表する。	事前学習	グループ発表の準備をする。実際に声を出して練習し、間の取り方を確認し、質疑応答が英語で出来るよう準備をする。
		事後学習	グループ発表を通して学んだこと、気づいたことを振り返りシートに書き留めておく。
第15回	10. 総まとめ 15回の授業のポイントの確認と質疑応答	事前学習	これまでに学習したことをよく復習し、質問内容を考える。
		事後学習	期末テストに備え、知識の整理を行う。
期末試験			